

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
		<ul style="list-style-type: none"> ・設定温度10～15℃で加温管理が行われていることから、生育は概ね順調に推移している。 ・4月の出荷量は、ほぼ前年並みが見込まれる。 ・病害虫の発生は少なく、切り花品質は良好である。 	<p>現状 愛知、長野、茨城中心に増加傾向となった。ピンク、黄中心に中値での取引展開。加工、小売り、葬儀中心に安定した取引となった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 各産地出荷数量はピークを迎える月となる。上位から下位等級まで数量がまとまってくる。ピンク、黄、白中心に、紫、赤、オレンジも数量が増加する。 950,000本 @50</p> <p>FAJ 数量徐々にまとまるものの束需要など引き合いがあり、比較的安定した相場での取引続く見込み。</p> <p>東日本板橋花き 愛知・青森・福島・北海道中心の入荷。業務需要中心の動き</p> <p>世田谷花き 入荷量増加。上位中心となるが、需要は下位にまとまる見込み。</p> <p>第一花き</p>
		<p>3月に入り日照量も増えているため、芽吹きも良く、出荷量は前年比で微増を見込む。病虫害等の発生は特に見られず、順調に生育している。</p> <p>生育は順調で、出荷量は少なかった前年を上回る見込み。</p> <p>気候も安定し日照も確保が期待されることで3月末からは増加に転じる。本年は苗の生育も順調であり、非常に少なかった昨年度より多いが平年並みの出荷見込み。</p>	<p>現状 国産は、天候の影響を受け遅れがみられ、上中旬は数量は少なかったが、気温の上昇と共に下旬より増加。販売状況は品薄感があり、送別需要も高まり堅調な取引となる。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 出荷遅れていた分が4月に入り増加となる。また、冬場に出荷を休んでいた産地も出荷再開となり、潤沢な入荷となる。</p> <p>FAJ 西南暖地からの出荷数量まとまり、全体の入荷数量増加する見込み。</p> <p>東日本板橋花き 天候の回復とともに暖地物中心に入荷量増え、下旬になれば国産の各産地が出揃ってくる見込み。</p> <p>世田谷花き 4月前半に国産の出荷が増える見込み。月末に向け厳しい相場になりそうだ。</p> <p>第一花き</p>
		<p>やや前倒しで出荷となっている産地もあるため、4月はやや昨年より少ない見込み。気温が上昇してきており、シミが出やすい環境になっているため、換気の徹底や防除の徹底を図っている。4月は中旬から母の日に向かって数量増え始める見込み。</p> <p>杵築は下旬にかけて増加となるが、県内全体としては大きく増えず安定出荷が続く見込み。優品～良品が多かった昨年と比べ秀品率は高くなる見込み。</p>	<p>現状 静岡、熊本、沖縄と各産地日照量も出始め気温も上がり始めているため、国産は安定した出荷となる。しかし気温上昇とともに、台湾産は品質劣化が心配され、下旬には数量激減。彼岸期以降、品質見ながらはあるが相場は落ち着く。月末まで送別関係の動きで安定した取引となる。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 台湾産の出荷が気温上昇とともに減少すると数量は大幅に減少するので、相場は上がり傾向になる。また例年プライダル、入学需要で引き合いは出てくる見込み。</p> <p>FAJ 熊本・栃木中心の入荷。例年同様に安定した相場での取引が見込まれる。</p> <p>東日本板橋花き おきなわ産中心に多くなる。</p> <p>世田谷花き 台湾産も終了。沖縄産増える。婚礼需要も強まり、引き合い強い。</p> <p>第一花き</p>